

【全体概要】

大分県産いちごは出荷期間が長く、高温期の品質は一定の評価を得ているが、厳寒期の着色等品質向上を実需者から求められている。このため、県育成品種「大分6号」を実需者ニーズを反映した商品として、栽培技術・販売方法の確立を行いコンソーシアム候補を形成する。

新品种・新技術等の概要

【大分6号】 品種登録出願:平成29年2月 出願公表:平成29年5月  
(商標「ベリーツ」:平成29年12月登録)  
「大分中間母本」と「かおり野」の交配品種



【大分6号の特徴】

- 極早生性
- 果実は鮮やかな赤色で糖度が高い
- 花房の連続性があり、2月末までの早期収量が多い
- 果実が硬く長期出荷が可能

主な取組内容

【品種・技術の特性把握】

- ・新品种の実証圃を設置(県下6地域、19ヶ所)
- ・生育調査、品質調査等により問題点の把握と改善策を検討
- ・現地検討会、実績検討会の開催

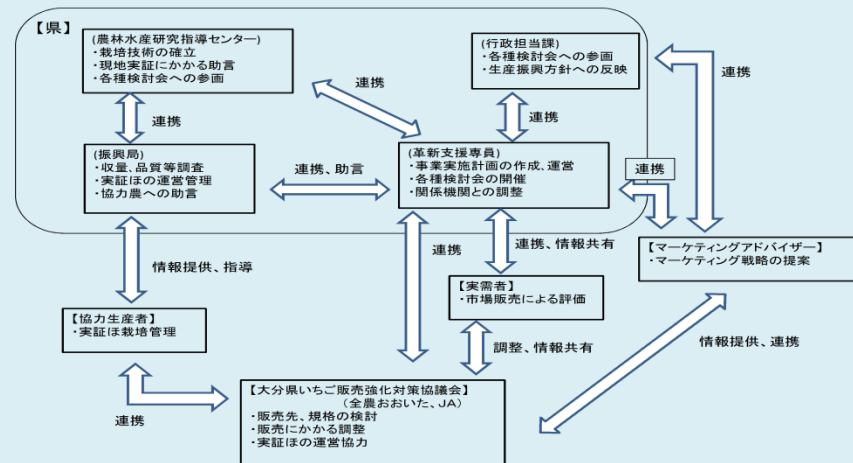


【産地・実需者とのマッチング活動】

- ・パッケージングの検討
- ・実需者(市場、仲卸)との意見交換会
- ・市場での品質調査



コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

【課題】

- ・果皮色については高い評価。
- ・気温上昇期以降に食味のばらつきが大きい。
- ・育苗期からのハダニ対策が必要。
- ・従来品種に比べ芽数等が多く栽培管理に時間がかかる。
- ・実需者との連携による有利販売の実現とブランド力の強化。

【今後の対応】

- ・試験研究機関で技術開発を進めるとともに、現地実証ほを設置し技術を組み立てる。
- ・栽培マニュアルの作成と栽培研修会の実施。
- ・「大分6号」の生産拡大と有利販売に向けて関係機関が一体となってコンソーシアムを形成し、課題解決を図る。